

わらべうた講座

♪おやゆびねむれ

心をつなぐわらべうた

講師：落合 美知子 氏

（「おはなしとおんがくのちいさいおうち
主宰）

本講座は、保育園・幼稚園・児童館や図書館等で、子どもたちとわらべうたを楽しんでいる方々を中心にご参加いただきました。

落合先生から、わらべうたの研究に基づいたお話を伺いながら、わらべうたをたのしく体験し、理論と実践の講座となりました。

はじめに— 趣旨と内容

刻々と変化する環境の中で、心を育むことば（肉声）の触れ合いが希薄になってきました。

なぜ、今、乳幼児にわらべうたが必要なのでしょうか？ 乳幼児対象のわらべうたを実践（体験）し、学び合い、子どもと本を繋ぐサービスや子育て支援に役立てていただく講座です。

1 ことば（肉声）で触れ合う（実践）

わらべうたによる触れ合いは、肉声による触れ合いです。言葉を獲得する過程にある子どもたちには、他の動物や機械（電子メディアなど）にはできない声の文化が必要です。わらべうたの持つ特徴を体験してみましょう。（参加者は次のような実践をしつつことばの持つ力を感じ合いました。）

- （コミュニケーション）♪おちやをのみに
- （応答）♪あんたがたどこさ
- （能動的な関わり）♪いないいない ばあ
- ♪おてぶしてぶし
- （遊びと想像、創造性）♪にぎりぱっちり
- （身体性）♪おせよおせよ

2 乳幼児がはじめて出会うことば

わらべうた、子守唄は、触れ合っままなざしを感じながら、赤ちゃんが自然と言葉を獲得する手助けとなります。

絵本とわらべうたによる関わりには、次のようなものがあります。

- 母語（母乳（ミルク）と同様に）
心と体のたべもの
- 肉声のふれあい
リズムカルなことば、コミュニケーション、絆
- 愛情—まなざし、五感への贈りもの、安心感（抱っこなど）
- あそび—たのしむ、よろこぶ、応える、主体性、想像・創造力
（絵本、わらべうた→人間が獲得してきたことばをたのしむ）

3 わらべうたであそぼう

—心をつなぐ わらべうたの実践

実践例（『子どもの心に灯をともしわらべうた—実践と理論—』181-183p 参照）

*「親子でたのしむわらべうた」の方法（180p）

わらべうたにのせて、子どもたちは、名前を呼ばれることで自分が認められていると感じ、まねることで言葉を獲得していきます。繰り返し肉声でうたわれ、伝承されてきたわらべうたは子どもが求めているものを満たしてくれます。

- 子守唄 —ねむらせうた・あやしうた・
あそばせうた— ♪ねんねんねやま
♪このここのこ ♪うさぎうさぎ
- 顔遊び —目、顔を合わせる— ♪こーぶろ
こーぶろ— ♪あがりめ さがりめ
- 体遊びうた —膝の上、くすぐり、足の上、
体ゆすり、しぐさ 他の遊びうた—
♪おすわりやす ♪おふねがぎっちりこ
- 手遊び唄 —指、手の遊びうた、じゃんけ

- ん、あてっこ、数えうた—
 ♪おさらにとまごに♪いちじくになじん
 ・布、人形を使ったあそび 他（お手玉、ボール等）— ♪ぎっちょぎっちょ
 ♪かれっこやいて（もちっこやいて）
 ♪せっせっせ 他
 ・季節のわらべうた —春、夏、秋、冬の例
 ♪ずくぼんじょ♪いもむしころころ
 ・グループで（複数の親子が一緒に遊ぶ）
 ♪おちゃをのみに♪どんどんばしわたれ
 ♪なべなべそこぬけ

4 わらべうた、子守唄とは？

「子どもが自ら歌い、または、大人に歌ってもらいながら、伝承してきたうた（唱えのことば、子守唄も含むものとする）」
 （落合氏）

ことば —口承、コミュニケーション、母語の特性

遊び —主体的、身体性、社会性

音楽 —鼓動・リズム、日本の伝統音階、音域 を伴って、風俗・習慣、地域性などが織り込まれている。

*わらべうたの世界

—マジック・アンド・ミュージック（注）

*子どもの文化とわらべうた—子ども自身の文化・大人供与の文化・共有

わらべうたは、子どもから子どもへ、大人から子どもへ伝承されています。

（注）マジック・アンド・ミュージック（ハーバート・リード）— 『幼い子の文学』より

「ある言葉は耳に快く響きますし、口にすると舌に感じのよいものです。またある言葉は魔力をもち、心を神秘感（ワンダー）でみたくします。マジックとミュージック、これが最良の詩にはふたつながら関わっています。そしてそれが一緒になって、詩の特別な喜びを私たちに授けてくれます。」

5 図書館のおはなし会

①図書館における「わらべうた」の取り組み

*言葉との出会い・獲得、自然・人とのコミュニケーション（絆）、読書の基盤、本との出会い、図書館の扉を開ける、継承の場、たのしい世界、いのちを育む

*乳幼児おはなし会の型

（絵本とわらべうた 実践例）

導入のわらべうた・絵本

→親子でたのしむわらべうた

（目、顔合わせ、抱っこ、膝上の遊び他）

→参加者のコミュニケーション、季節の

わらべうた→

絵本・終わりのわらべうた

②絵本・わらべうたの文学的共通性

—『幼い子の文学』より

*ことば—素朴で具体的なことば、音がよく響きのよいことば

*型、スタイル—反復、問答、対照的な見方

*リズム—母語のリズム

6 子どもへのまなざし

『センス・オブ・ワンダー』

大人との違いを感じましょう。

いのちを育む愛のまなざし

繰り返すと継承を大切にしましょう。

おわりに

参加者の多くは、子どもたちにわらべうたを届けている方たちでしたが、一緒に歌って、遊んでいるうちに「受講」というより、楽しんでいただいたようです。そして各々が子どもたちにわらべうたを伝えてくれることでしょう。

